



「2021年 正しい努力」

ご挨拶が遅くなりました。1年次の皆さんまた保護者の皆様、本年もよろしくお願ひいたします。年明け早々1都3県に緊急事態宣言が再発令され、本校でも感染が報告されました。感染した仲間の回復を祈る一方で、皆さんの日頃の感染防止対策をしっかりと実践していることにも感謝しております。

もう一昨年になるんですね「2019ラグビーワールドカップ日本大会」。年末年始にBSで日本戦全試合を再放送してましたね。国内プロリーグ戦「トップリーグ(TL)」の番宣だったようです。今年はそのスコットランドの主将レイドロー、オールブラックスの司令塔ボーデン・バレットなど世界屈指のプレーヤーがTL参戦。これも19W杯の日本の大活躍により、彼らが日本でプレーを選択した一因となっていることは間違いのないと思います。しかしながらそのTP開幕も緊急事態宣言下のなか残念ながら選手・スタッフに感染が確認されたことで延期となっています。昨年も開幕数試合で中断、そのまま再開せず終了となっていました。

そんななか、活動休止期間中の日本代表主将リーチマイケル選手のポジティブな発言をいくつか紹介します。「今は感染拡大させないことが大事。来季に向けてこの時間をうまく使いたい」「子どもと縄跳びの二重跳びで10回連続を目標にしている。手と足の連携が難しく、これをやれば身体能力が高くなる」「身体全身のメンテナンス(手術・治療)でW杯のときは60%位の力が、今シーズンは100%でやれる」あの活躍が60%(笑)。

日本国籍取得後、日本人として海外で世界のラグビーを実践経験し、その都度日本ラグビーのために彼は多くの発信をしています。「これまでは監督やコーチの言われた通りにやっているだけ。それだはダメだ。もっと自分たちで考えてやらないと」「僕らの理想は監督・コーチがいなくても選手自身が考えて勝てるチーム」「もともと日本代表は体力で勝たないとダメと言われてきた。けど、これまでは正しい努力をしていなかった。ただひたすら走るのではなく、ラグビーに合った走りをする。100mを10本走る、それは走れるけど、試合になったら全く違う。今の日本代表は、ほぼ試合と同じ状況を作り、体がしんどい状況でそれをやる。フレッシュな状態で練習するのも良いけど、試合では疲れた時にミスが起こる。その状況を想定して練習はすべきある」etc...。



自分に置き換えてみてください。「授業をただ受け課題もただこなすのではなく、自分の本当の力になるように常に考え、意識し工夫しながら取り組む」ことが大切なのだと思います。リーチのいう「正しい努力」これができる2021年にしていきましょう。

年次主任 三井恒弘

◎2月行事予定 ～月末は1年次最後の定期試験です。準備をしっかりと～

日	曜日	A/B	予 定	日	曜日	A/B	予 定
1	月	B		16	火	B	学校評議員会
2	火	B	IB指導法研究会	17	水	B	職員会議 週礼
3	水	B	週礼 3年次通常授業終了	18	木	B	
4	木	B		19	金	B	
5	金	B	生徒9:00登校※職員会議(高校入試関係)のため	20	土		
6	土		土曜講座(1)	21	日		停電(電気設備工事)
7	日			22	月	A	きずなの日
8	月	A	きずなの日	23	火		天皇誕生日
9	火	A	卒業認定会議 卒業式主任会議 週礼	24	水	行	第4回定期試験 職員会議(高校入試関係)
10	水	A	年次会議	25	木	行	第4回定期試験
11	木		建国記念の日	26	金	行	第4回定期試験
12	金	A	総合的な探究の時間講演会(YCCホール)	27	土	行	※登校日 第4回定期試験 卒業式予行
13	土		土曜講座(1)	28	日		
14	日			1	月	行	第73回卒業証書授与式 ※1,2年次は休業日
15	月	B	第4回定期試験時間割発表	2	火	B	高校入試会場準備 ※45分短縮 13:00完全下校

保護者の皆様へ

「三者懇談へのご出席ありがとうございました。」 お忙しい中また寒い中をご来校くださりありがとうございました。御家庭での様子や普段の学校生活、来年度の履修科目を主な話題にさせていただき、有意義な時間を持つことができました。懇談でいただいたご意見は管理職にも伝えまして、今後の学校運営に生かしていきたいと思ひます。

「2年0学期」 今月末は前期高校入試、また2月末からは卒業式や高校入試など平常授業の日程が少なくなり、家庭での学習時間が多くなります。この時期は「2年0学期」ともいわれ、苦手科目の克服や1年次の遅れを取り戻し、また2年次の学習分野を先取りしてスタートダッシュに向けた準備期間です。進路実現の第一歩として、年次職員力を合わせてお子さんのバックアップに努めさせていただきます。今後も御協力をお願い申し上げます。

◎先生方からの寄稿 今月は4組の担任 細倉 要太郎先生 と 副担任 平本 圭子 先生です。

「高校・大学時代からの友人に年賀状を何枚でしたか。」

自分が白根高校1年生だった時、最初はとっても嫌でした。近所に自転車で20分で行ける巨摩高校があるのに、総合選抜というよくわからない仕組みによって、家から自転車で45分以上かかる白根高校に入学が決まったからです。もともと希望していないわけではなかったのですが、入学してみると同じ中学校の生徒は少なく、親しい友人はみんな巨摩高校に入学し、もともと親しいわけではない人が白根高校に多かったのです。1年の夏休みになると、中学校時代の友人が恋しくて「中学校時代が1番よかったよなー。」なんて言いながら何回も遊んだことを覚えています。自分は新しい場所に適応できるのか、不安を抱えながら高校生活を過ごしていたと思います。みなさんも同じようなフェーズを通り過ぎたのかな？



しかし、中学校時代の友人とはそれっきり2度と会っていない人も多いです。なぜかはわかりませんが、きっとそれぞれの場所で新しい友人と関係性を構築し、それぞれが居心地の良い空間を作っていたのでしょう。会えばきっと会話が盛り上がると思います。年賀状は送っていませんし、電話番号すら知らないのです。今の自分はどうかというと、白根高校生の時に私は1組でしたが、逆サイドの7組の生徒だった人とお付き合いが続いています。進学後に奇妙な縁で繋がりがあって、今は家族ぐるみのお付き合いをしています。今年は年賀状を書きながら、「俺って高校・大学時代からの親友は何人いるんだろう？」と考えました。年賀状を数えてみたら、15枚もなかったです。「少なっ！」って思うかもしれませんが、遠慮なく何でも話せる付き合いが20年以上も続いている親友ってけっこういるなあと感じました。

これから出会う人々は一生涯の関係性となる人々が多いはず。きっと「視線の高さ（目標・理想・夢）」が同じくらいだったり、憧れるくらい高かったりするからなのだと思います。新しく人間関係を構築するのはエネルギーが要るかと思いますが、まずは「挨拶」です。「おはよう・こんにちは・こんばんは・おやすみなさい」、「さようなら」、「ありがとう」など様々ですが、これらが会話の糸口となります。4月にはクラス替えもありますね。残り少ない今のクラスの関係性を大切にしましょう。4月には新しいクラスメートに元気よく「挨拶」しましょう。



4組担任 細倉 要太郎



「2021年」

皆さんにとって2020年は高校入学節目の年。新型コロナウイルス感染症流行の拡大により、生活が一変した1年でもありました。初めて経験する長い臨時休校、分散登校を経て、学校再開。マスクをしながらの学校生活ですが、皆さんの笑顔と笑い声のある学校、今まで当たり前だった日常が、いかに尊いものだったのかを改めて感じた1年でした。

2020年度、IBCASの担当となり、9月には、全国から14名の先生方が集まって行われたCASワークショップに参加させていただきました。CASに関するたくさんの課題が与えられ、先生方と一緒に考え、意見や情報を交換し、CAS活動についての理解を深めてきました。このワークショップで、CAS活動に対する先生方の熱意に触れ、IBという世界へ抱いていた不安はやわらぎ、一歩踏み出して新しい知識を学ぶ楽しさ（おもしろさ）を感じることができました。また、困ったことがあれば助けてくれるだろう新たな輪も作ることもできました。「すべては行動するためにある」。ある先生がおっしゃった言葉です。行動することの大切さを再認識し、IBという新しい世界が広がった3日間でした。



では、行動するためには、何が必要でしょうか。興味や関心、調査・準備、振り返り、一歩踏み出す勇氣、そして、決断力ではないでしょうか。「決断力」という著書で、将棋の羽生善治氏は、『決断は自分の中にある。現状に満足してしまうと、進歩はない。物事を進めようとするときに、「まだその時期じゃない」「環境が整っていない」とリスクばかりを強調する人がいるが、環境が整っていないことは、逆説的にいえば、非常にいい環境だといえる。リスクを強調すると、新しいことに挑戦することに尻込みしてしまう。リスクの大きさはその価値を表しているのだと思えば、それだけやりがい大きい。そちらに目を向ければ、挑戦してみようという気持ちも起きてくるのではないだろうか。』と書いています。行動力・決断力、まさにコロナ禍で問われた力だったのではないのでしょうか。



2021年、自分の信じる道を自分自身で決断し行動する1年に、新しい世界が広がる1年になってほしいと願っています。

4組副担任 平本 圭子